

はじめに

領域代表者：岩崎宏之・筑波大学歴史・人類学系教授

文部省科学研究費補助金重点領域研究「沖縄の歴史情報研究」は、平成6年度から平成9年度までの4年間を研究期間として進められた。本書はその総括班による研究成果報告書である。本領域研究での研究課題は計画研究が9課題、単年度で更新される公募研究は延べにして32課題からなり、全国にわたって多くの研究者が参加した。ことに本領域研究は歴史学と情報科学との有機的結合を必要とし、また従来ともすると個別に行なわれていた日本史、東洋史、アジア史、朝鮮・韓国史などの個々の歴史研究活動の枠を越えた新たな取り組みが求められた。とりわけ歴史資料の情報化に取り組む局面では、研究班の枠を超えての共同研究が行われた。インターネットや画像処理にかかわる技術的な進歩は急速で、この「追い風」をうけつつこの共同研究では歴史研究に有効と考えられるコンピュータ利用の幾つかの試みを行なった。またコンピュータを媒体とすることを通じて、歴史情報の公開と共有を目指す新たな共同研究の枠組みを模索した。そうした研究のプロセスをも含めた報告書として、本書は作られている。「第1部 重点領域研究「沖縄の歴史情報研究」の課題と研究成果の概要」では、われわれが設定した研究課題と研究の経過、研究成果の概要を取りまとめた。「第2部 計画・公募各研究班の研究課題と主要な研究成果」では、各研究班ごとの研究の取り組みとその成果を報告することにした。また「第3部 重点領域研究「沖縄の歴史情報研究」における主要研究テーマの研究成果」では、本領域研究での種々の試みについて、研究の経過とその成果を具体的に述べた。そして「第4部 重点領域研究「沖縄の歴史情報研究」における漢字処理問題について」では、人文科学領域での目下の重要問題である外字の処理についての、われわれの試みを説明した。「第5部 寄せ書き」は、この共同研究に参加した個々の研究者の素顔を見せるために、各人が1ページの持ち分で書いたものである。

この領域研究の成果は、情報化された歴史資料のデータベースが広く公開・提供され、研究に利用されることによって初めて真価が問われる。本領域研究の成果である情報化資料は、筑波大学付属図書館からインターネット上で公開することになるが、この「研究成果報告書」は、その公開・提供されるデータを利用するためのマニュアルとして使われることを意識して作られている。忌憚のないご批評をお願いしたい。

最後に、本領域研究の推進にあたってご支援、ご協力を賜った関係各位に、深甚なる感謝を表する次第である。